

進路に不安を持つ すべての高校生へ

「進路決めた?」「志望校どこ?」「将来何になりたいの?」

学校の先生や周りの大人から投げかけられるこうした質問に、高校生の私は自信を持って回答することができませんでした。それでも私は、海外大学への進学を決めました。

海外進学を決めた理由は「憧れ」と「焦り」

若いうちに、日本とは違う場所で学び、生活したいという好奇心が最初に私を動かししました。また、変化が激しい時代で、自分の強みを持つ必要があるのではという焦燥感がありました。このように、私は最初からはっきりした理由を持っていたわけではありませんでした。

しかし、おおさかグローバル塾では英語を楽しみながら、世界に興味を持っている人たちにたくさん出会うことができました。さらに、海外大学の授業を体験できる短期留学や海外進学に必要な言語学習や出願のサポートが受けられたのは、私にとって心強かったです。

進路は一回きりではない

進路を考えるとき「将来何がしたいのか」を考えても、なかなか答えが見つかりにくいこともあります。そこで「いまの私」に焦点を当ててみるのはどうでしょうか。「いまの私」を軸に考えることで、その時点での自分なりの仮説が見えてきます。こうした仮説は当然、経験を重ねたり時間が経ったりする中で、変わっていくこともあります。しかし、進路は、一度決めたら終わりではありません。「いまは〇〇に興味がある」「こういう環境は避けたい」といった小さな感覚を拾い上げていくことからでも、進路は考え始められると私は思います。



最後に

進路について誰かに相談することは大切ですが、最後は自分で決断してほしいと思います。「決断」とは、何を選ぶかを決めると同時に、何を諦めるかを決めることでもあります。

完璧な人生がないように、完璧な進路もありません。だから、進路を正解の道を選ぶことだと思わないでください。自分が進んだ道を、正解にしていける。その気持ちを持って、一歩を踏み出してほしいと思います。

みなさんがこれから選ぶ道が、どこであっても、その道を自分らしく歩んでいけることを願っています。

おおさかグローバル塾
2024年度修了生 東内 祐弥さん
The University of Melbourne (Australia)